

ふくしま県人会だより

第50号
令和7年1月
福島県人会
北海道連合会

福島県人会北海道連合会会長

新年あいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 佐藤 貞夫



福島県人会北海道連合会会員の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は第五十二回福島県人会北海道連合会総会が五月二十六日定山溪で開催され、全道から多くの会

員の皆様と、母県福島から副知事にもご臨席を賜り盛大に開催できました。

母県が見舞われたあの東日本大震災から今年で十四年となりますが、改めて犠牲になられた方々と被災された方々の皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。

今年第五十三回福島県人会北海道連合会総会を五月に苫小牧市で開催を予定していますので、また会員の皆様にお目にかかるのを楽しみにいたしております。

最後になりますが、母県福島県の更なる復興と福島県人会北海道連合会会員の皆様の今年一年の御健勝を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

福島県知事

新年あいさつ

「復興と地方創生の新たなステージに向けて」

福島県知事 内堀 雅雄



謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

福島県人会北海道連合会におかれましては、昭和四十八年の発足以来、ふるさとを同じくする方々の心のよりどころとして、会員相互の交流を深められておりますことは、誠に喜ばしい限りであり、心から敬意を表します。また、会員の皆様におかれましては、本県に格別のお力添えを賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、パリ二〇二四オリンピック・パラリンピックでの本県関係選手の活躍など、スポーツに関する明るい話題が続いたほか、二〇二六年春のふくしまデザインেশョンキャンペーンの開催決定など、今後の復興と地方創生を後押しする動きも数多く見られました。また、震災と原発事故から間もな

く十四年が経過する中、避難地域では、四つの町に認定された全ての特定帰還居住区域において除染・解体作業が進められているほか、県産農産物の輸出货量が過去最高を記録し、県内への移住者数も過去最多を更新するなど、これまで続けてきた挑戦の成果が目に見える形となって現れてきています。

一方で、廃炉と汚染水・処理水対策を始めとした原子力災害に伴う様々な課題に加え、急激に進む人口減少など、依然として困難な課題が山積しており、長い戦いとなる本県の復興と「福島ならではの」地方創生を成し遂げるためには、今後も挑戦を続けていかなければなりません。

まず、震災と原発事故からの復興・再生につきましては、令和七年度が最終年度となる第二期復興・創生期間後のステージを見据えながら、復興の進捗に伴って生じる新たな課題やニーズに的確に対応していくとともに、被災者の生活再建や事業・生業の再生、帰還に向けた環境整備などの課題に着実に取り組んでまいります。

また、人口減少対策につきまして、急激な人口減少のスピードをいかに緩やかにしていくかが重要となつていくことから、様々な主体と

危機感を共有しながら、出会い・結婚から妊娠・出産、子育てのライフステージに応じた切れ目のない支援などの「自然減対策」と、県内で働く魅力を発信し、若者の県内定着・還流を図る取組や移住・定住の促進などの「社会減対策」の両面から粘り強く取り組んでまいります

今年四月からは、プレDCがスタートします。来年の本番に向けた機運醸成を図りながら、多くの皆様へ、本県のような魅力と復興に向けて力強く歩み続ける福島の今を「見て」「食べて」「感じて」いただけるよう、準備を進めてまいります。

今後も、県民の皆様と共に、挑戦を続けてまいりますので、一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。新年の御挨拶といたします。

会長就任あいさつ

札幌福島県人会

会長 清野 昭一



このたび、船山 一会長の後任として札幌福島県人会会長に就任いたしました。

私の出身地は福島市野田町長泥（現在は「南中央」）で、高湯温泉、吾妻小富士へ向かう高湯街道沿いで高校卒業まで住んでいました。昭和四十六年に大学入学にともない初めて北海道の地を踏みました。札幌市営地下鉄が開通し、昭和四十七年には札幌冬季オリンピックが開催され、札幌市内の街並みが大きく変貌していた時代でした。

札幌福島県人会へ入会したのは昭和五十七年、三十歳でした。しかし、仕事の関係でなかなか会合等行事に参加できない期間が長く続き、名前だけの会員でした。各種行事に参加する契機になったのは、平成十四年ホテルノースランド帯広で開催された第三十回連合会総会でした。爾来札幌福島県人会の行事には極力参加するようになり、役員に推挙され現在に至っております。

今般、会長に推挙されたところですが、役員構成をみるとここにも高齢化の波が押し寄せているのを感じざるを得ません。が、ふと思うと自分自身が入会してから四十年を経て高齢者になっていることに気づいた次第です。

役員会で専らの話題はやはり会

員の増員方策です。妙案がそう簡単に浮かぶわけではありませんが、常に意識して話し合っています。

各地県人会での活動を参考に、また県事務所から情報提供を得ながら、会員が積極的に参加したくなるような企画をもって会員増強に努めていく所存であります。

今後とも札幌福島県人会を大いに盛り上げるべく努力して参りますので、皆さまの尚一層のご協力、ご支援を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。

会員通信

「二〇二四モルック世界大会 in 函館」と西田敏行さん

函館福島県人会

会長 島 昌之

「ふくしま県人会だより」第五十号の発行、おめでと〜うございます。昨年は「二〇二四モルック世界大会 in 函館」が八月二十三日（金）〜二十五日（日）、函館昭和公園と函館工業高等専門学校にて二会場で開催されました。

「モルック」はフィンランド発祥

のスポーツで、ヨーロッパ以外での世界大会開催は函館が初めてとなりました。

函館福島県人会でも昨年「モルック体験会」を行うなど、函館での「モルック熱」は世界大会に向けて盛り上がりつつありました。参加者数は世界各地から三二一人／六四三チームで過去最大となり、国別対抗戦ではフィンランドが優勝（日本は五位と健闘）、大会本戦では兵庫県の明石市のチームが見事に優勝（準優勝はフランスチーム）を飾りました。

モルックの魅力はルールが非常に分かりやすく、誰もが一緒に楽しむことができます。障がいのある人や年齢に関係なく子どもからお年寄りまで一緒になって楽しむ、「コミュニケーションのツール」としても最適です。機会があれば、福島県人会北海道連合会でも取り組んでみてはいかがでしょうか。

さて、私の生まれ故郷は以前に紹介させて頂きましたが福島県郡山市です。昨年十月十七日に逝去されました映画俳優の西田敏行さんとは、小原田小学校・中学校の同窓生でした。西田敏行さんの生まれは昭和二十二年十一月四日。そして私はちょうど四年後輩の昭和二十六年十一月四日。生まれた日にちが一緒



【モルック世界大会の様子②】



【モルック世界大会の様子①】

ということもあり、身近な存在に感じていました。「福島なまり」が抜けず、誰からも親しまれた西田さん。あの人なつっこい笑顔を忘れることは出来ません。この場をお借りしてご冥福をお祈り申し上げます。



【モルック世界大会の様子③】

高校クラス会

旭川福島県人会

幹事長 圓谷 清

私は、福島県立岩瀬農業高等学校（短くして、岩農）六十七期卒業生です。昭和四十七年四月入学し五十年三月卒の三年間は、勉強は二の次で同級生仲間との毎日が楽しくて楽しくて、幸せな三年間でした。農業実習は、水稲く養蚕く畜産く園芸く農業全般まで教えていただきましたが、卒業後自衛隊に入隊したため、あの農業実習は何だったのでしょうか。しかし、思えば友と仲良く楽しく協力しての学校生活で学んだ

ものは、大きかったです。そう思う今日この頃です。

昨年クラス会がありました。四十一名中二十二名の参加者で、今年度六十八歳ですが前倒し古希祝を兼ねてのクラス会でした。同級生の中には、村長、農業組合長、福島県警第二課長、各経験者、区長下番上番中それぞれの状況でしたが、一泊二日の時間では当時の高校三年間に戻り、あつという間の時間でした。私こと、高校時代は学級委員にはほど遠い成績でしたが、三年前より町内会で民生委員を依頼され、上番中です。「おまえがかあ」と、みんな笑っていました。

須賀川市神炊館神社で古希祈禱を受け、郡山の温泉へと、入浴し前一会く本懇親会く後三会く各部屋会く懐かしい思い出話に花が咲き、話だけでたくさん笑いました。

写真の一字は、記念に私が作ったものですが皆喜んでくれて良い思い出写真になったと思います。

令和七年遅くとも八年に、仲の良かった同級生が旭川に来てくれますね、嬉しいですね。持つべきものは、「友」と思います。感謝です。



【クラス会の集合写真（圓谷様：一列目右から3番目）】



【懇親会の集合写真（圓谷様：一列目左から2番目）】

美幌福島県人会一年間の思い出を

美幌福島県人会

監査 刈谷 敏子

福島県人会北海道連合会総会が令和六年五月二十六日に行われ、美幌福島県人会からは私を含めて四人が参加しました。

私の小学校の恩師である小沼先生は私の家族を思ってくれた先生でしたが、その恩師の息子さんである小沼由知さんと総会で初めてお会いしました。お互いに初めてと思えないほど素晴らしい時間でした。時間の過ぎるのは早いものです。

前崎副会長は、令和六年十月四日の観楓会懇親会では、とても元気にお酒を飲み、食事もされていて、とても楽しそうに皆と話をしていたのですが、忘年会の際には会えない人になってしまいました。私の心は悲しみと寂しさで一杯です。前崎副会長は、いつも私を励まして傍にいてくれた人でした。美幌福島県人会副会長として頑張っていた姿は忘れることは出来ません。どんなことがあっても最後まで頑張る前向きに生きることを私に教えてくれました。

最後に、令和七年五月三十一日、六月一日に苫小牧市で行われる連

合会総会で皆様と会えることを楽しみにしております。



【美幌福島県人会の皆様】

県人会に入会して

苫小牧福島県人会

新井 靖子

私が初めて福島県人会の方とお逢いしたのは、足の手術のため入院していた時でした。術後のリハビリ期間が終了し自宅に戻ってからも装具が取れず、以前のように歩く事もままならず、近くの公園の散歩をするのが精一杯でした。日々足の事

に心が集中し、不安な毎日を過ごしていた時に、入院していた時に福島県人会にお誘いをいただいた谷口さんをふっと思い出しました。是非仲間に入れていただきたいの思いで「とまこまい港まつり」の会場に出店している福島県人会の人とお会いしました。そこで「福島ではどこに住んでいたのですか？」と尋ねられたので、田島に住んでいたと答えました。優しい方がいらして一生懸命地図を見て探してくださりましたが、見つける事が出来ませんでした。（後日、南会津と分かる。）五十年前の事が鮮明に浮かんで、楽しいこと、辛いこと色々ありましたが、田島の方はとても親切で優しい方ばかりと記憶しております。

そして、桃を買って帰宅しました。二三日後に県人会の方から電話をいただいて、入会する事ができとても嬉しかったです。

その後、先輩からパークゴルフの用具をいただき「パークゴルフを楽しまう会」にも入会し、指導を受けながら無我夢中で初めてのパークゴルフを楽しみました。そして帰りには自宅まで送っていただきました。

二回目は、少し余裕が出来たので、皆様と和気あいあいと楽しくパークゴルフを終えました。今回は納会



【パークゴルフを楽しむ新井様（後列左から3番目）】

というところで、成績の上位の方からくじを引き順位を決めることになりました。私も成績上位の商品をいただき、今までにない経験で本当に楽しい一日でした。

その後、会長さん始め皆様との食事会で、心から癒やされました。県人会の皆様のおかげとするような人情あふれる優しさに巡り会い、入会して本当に良かったと思っております。

新会員の紹介

※ 今回は、ご紹介がありませんでした。新規入会がありましたら、次回以降の県人会日よりご紹介いたします。

福島県からのお知らせ

チカホで初めて秋の果物の

PRイベントを行いました

令和六年十月二十一日（月曜日）
（二十二日（火曜日）まで、札幌駅前
前通地下歩行空間（チカホ）にて、
県の観光地や物産の魅力をPRする
イベントを開催しました。

イベントに合わせ、JAふくしま
未来様にお越しいただき、福島県産
シャインマスカットや、りんご（シ
ナノスイートや玉林）の販売を行
いました。これまでチカホでは、夏の
桃や冬のあんぼ柿のPRは行って
いましたが、秋の果物のPRイベン
トは、今回が初めての開催となりま
した。

両日とも、販売開始前から行列が
できるなど、多くの方々にお買い求
めいただきました。特に、りんごの

売れ行きは好調で、「福島でりんご
が採れるのは知らなかった」「福島
のりんごを食べてみたい」「福島は
桃が美味しいからりんごも美味し
いはず」などの嬉しいご意見をいた
だきました。北海道の皆さまに福島
の秋の味覚を知っていただく格好
の機会となりました。



【販売開始を待つ行列】



【福島県産のシャインマスカットとりんごが並ぶ】

福島県北海道事務所が
北海道新聞に掲載されました

北海道新聞の令和六年十一月六
日（水曜日）の記事（ウェブ版は十
月二十九日（火曜日）に、福島県
北海道事務所の紹介記事が掲載さ
れました。

記事によると、ピーク時には道内
に二十地域以上の都府県が出先事
務所を構えましたが、現在残ってい
るのは福島県のみという状況です。
当事務所では、桃をはじめとした
福島県の美味しい農産物の流通促
進、観光PR、教育旅行や企業の誘
致活動などを行っています。新聞記
事掲載後に「記事を読んで福島県北
海道事務所のことを知り、寄ってみ
た」という来所者もあり、当事務所
の存在や活動内容を広く道内で知
っていたり、機会となりました。
また、事務所内では、県内の観光
パンフレットやポスターを配架し
て福島県の情報発信を行っている
ほか、県人会連合会の活動や県人会
ごとの活動をお知らせする「県人会
コーナー」もございます。お近くに
お越しの際には、ぜひお気軽にお立
ち寄りください。

MEGADON・キホーテ苫小牧店で
PRイベントを行いました

令和六年十一月三十日（土曜日）
から十二月一日（日曜日）の二日間、
MEGADON・キホーテ苫小牧店に
て、茨城県との共同で茨城・福島P
R展を開催しました。

本県は、旬の最盛期を迎えたりん
ご（サンふじ）や出荷が始まったば
かりのあんぼ柿（平核無柿）を始め
とする農産物、くるみゆべしや果汁
100%の桃ジュースなどの県産品の
販売や、人気酒造の出展による県産
酒の販売を行いました。

茨城県は、特産品の蓮根や干し芋
などの販売を行いました。
苫小牧福島県人会の皆様をはじめ、
両日ともに多くの方に御来場い
ただきました。



【銘菓、果物、酒など福島県産品が並ぶ】



【多くの人で賑わうイベントスペース】



【茨城県のブースは蓮根や干し芋が並ぶ】

冬ならではの和スイーツ

「あんぼ柿」をどうぞ

あんぼ柿は、皮を剥いた柿を硫黄くん蒸（いぶすこと）することで作られる干し柿の一つで、表面は飴色中はとろりとした口当たりです。あんぼ柿のくん蒸法については、大正十一年（一九二二年）に、福島県伊達市梁川町の五十沢地区で確立され、百年以上の歴史があります。

今年も札幌市内において、福島県産あんぼ柿（蜂屋柿）のPR販売のイベントを二つ行いました。PRには、昨年も大好評だった、あんぼ柿発祥の地・五十沢地区で作られたあんぼ柿を準備しました。

一つ目のイベントは、令和七年一月十六日（木）から十七日（金）までの二日間、セイコーマート北海道庁店（北海道庁地下一階）にて実施しました。両日とも、昼過ぎにはその日の準備分が完売するなど、昨年に引き続き大盛況となりました。

二つ目のイベントは、令和七年一月十八日（土）に、札幌駅前通地下歩行空間（チカホ）にて実施しました。メインのあんぼ柿の他にも、玉羊羹や会津みしらず柿を使用した銘菓や、赤べこ関連商品なども販売しました。

また、本県に研修旅行を実施して

いる立命館慶祥中学校・高等学校の生徒さんが、研修旅行を通じて感じたことなどの発表を行いました。

イベント開始前から多くの方にお並びいただき、大盛況となりました。特に、あんぼ柿が3つ入ったパック売りは、イベント開始から約十五分で完売。その後も客は途切れることが無く、個包装のあんぼ柿も夕方には完売となりました。

多くの方にお越しいただき、福島県をPRする格好の機会となりました。併せて、お近くのスーパーなどで、福島県産あんぼ柿を見かけた際には、お手に取っていただき、福島冬の味覚をご堪能ください。



【五十沢地区産のあんぼ柿】



【あんぼ柿を求める長蛇の列】



【立命館慶祥中学校・高等学校の発表の様子】